

津波対策施設の整備について

(浜松市沿岸域 防潮堤の計画について)

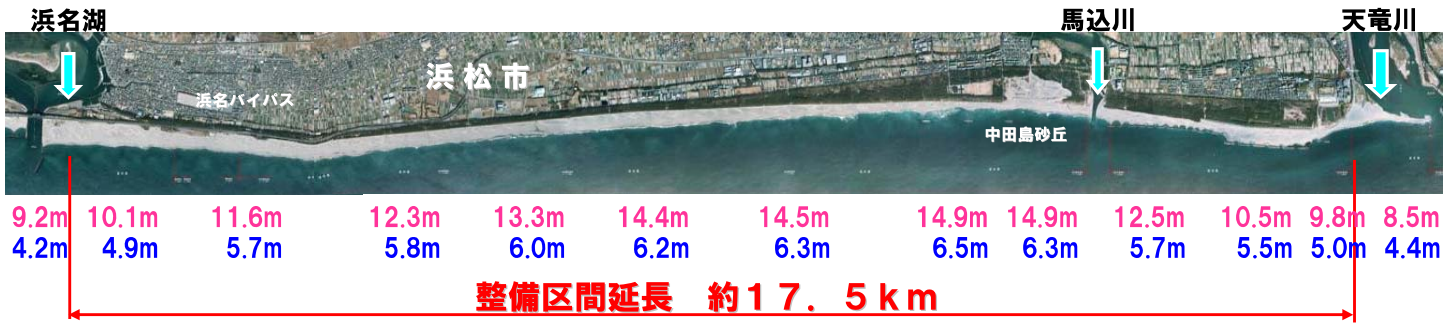
平成25年 3 月15日

交通基盤部

浜松市沿岸域の想定津波高

静岡県第4次地震被害想定(中間報告)の津波高

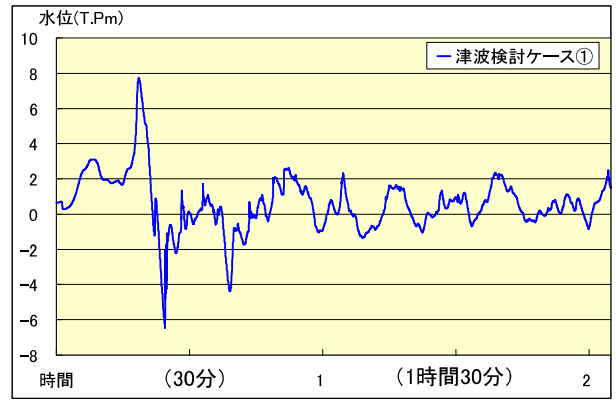
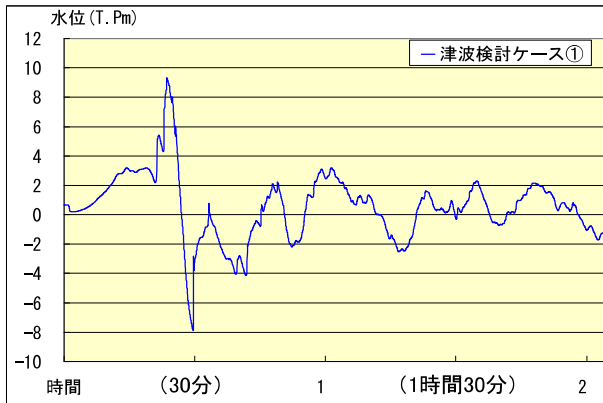
上段: L2津波高
下段: L1津波高



【舞阪】

南海トラフの巨大地震による津波波形

【天竜川河口部】



※上記の波形グラフは8月29日の内閣府資料を一部加工したもの

①

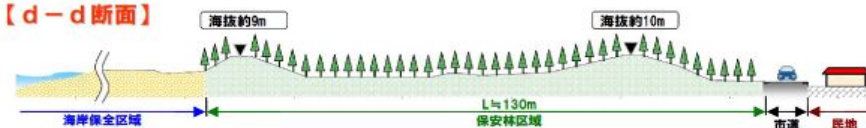
整備区間(西側区間)

浜松市沿岸現況写真(浜名湖今切口~天竜川)

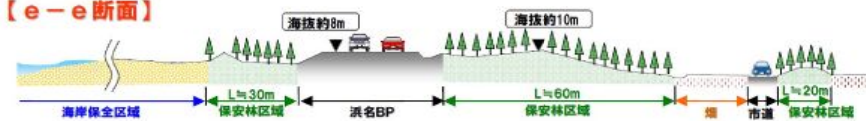
約17.5 km区間



【d-d断面】



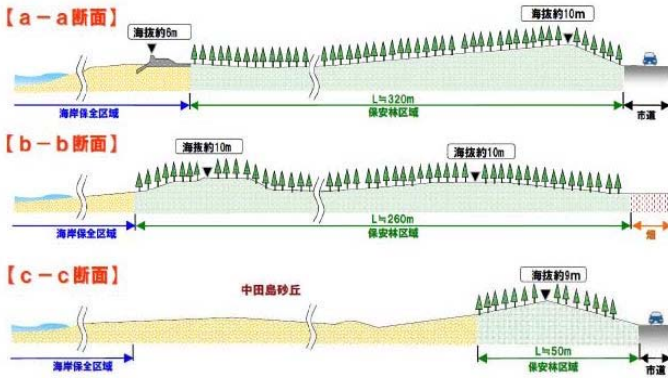
【e-e断面】



②

整備区間（東側区間）

約17.5km区間



③

防潮堤のルート（案）

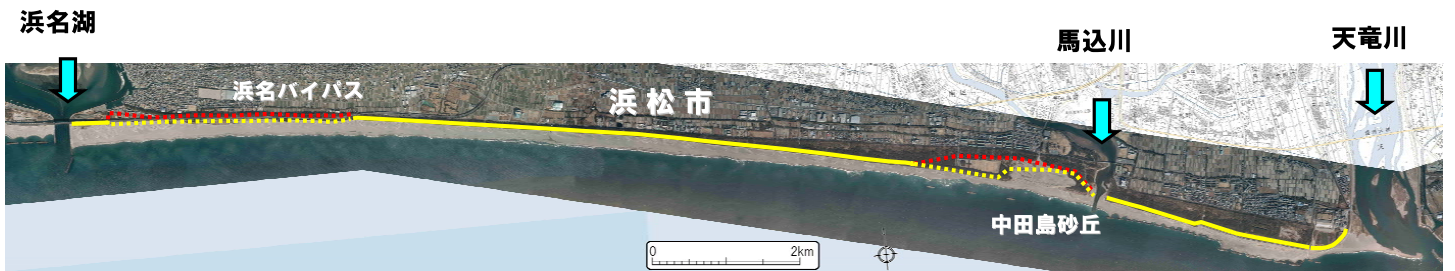
【基本方針】

- 砂浜の侵食が懸念されている状況や、アカウミガメの産卵など、貴重な動植物に配慮し、砂浜への影響を極力小さくする。
- 越流した津波による背後地の被害(洗掘や深掘れなどの影響)に考慮し、現況の海岸保安林の砂浜寄りの位置を基本とする。

配慮事項

【凡例】

- ルート案 —————
- ルート検討中



④

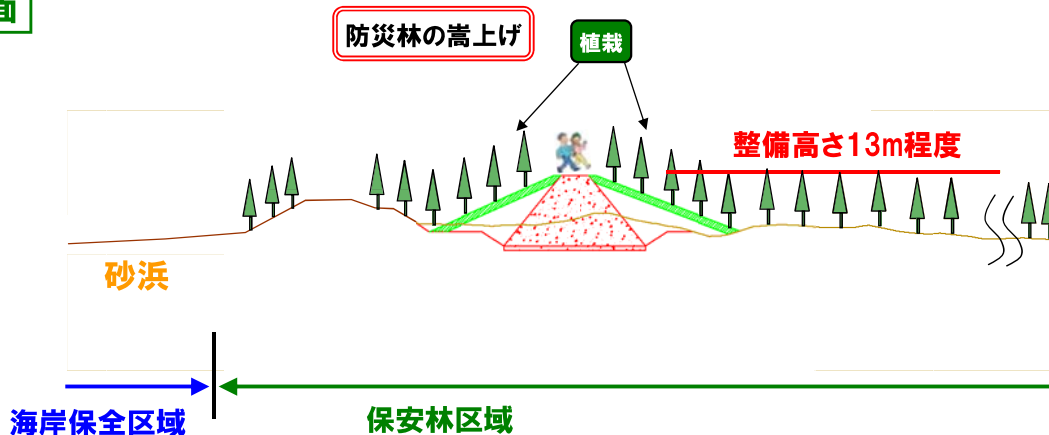
防潮堤の構造と高さ(案)

■ 構造と高さのイメージ



代表断面

海側



陸側

⑤

防潮堤の構造 (案)

【構造の考え方】

- 環境面・景観面に配慮し、保安林の再生が可能であること
- 地震動による液状化や津波の波力に対して、工学的に安定な構造であること

	一般的な海岸堤防(傾斜式)	今回の構造案(CSG堤+土堤)
基本断面		
構造の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 盛土表面をコンクリートで被覆することにより、津波流れによる盛土の欠壊を防ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂とセメントを混合したCSG堤により、津波波力等に対して安定な構造を確保する
評価	<ul style="list-style-type: none"> 保安林の再生ができないため、環境、景観面でマイナスとなる 防災林の代替として防風・飛砂対策が必要となる 	<ul style="list-style-type: none"> 抵抗性マツ等で保安林を再生することで、保安林機能の維持向上を図るとともに、景観、環境面への影響を最低限に抑えることが可能

※CSG堤は、ダムとして近年実績が多く、東日本大震災における海岸堤防の復旧工法に採用されている。

CSG堤は保安林の再生が可能で、津波波力に対して安定な構造の確保が可能

浜松市沿岸域の保安林区域への整備に対し適用性が高い

⑥

防潮堤の構造における設計の考え方

【設計条件】 津波波力や滑りに対し安定し、津波が越流した場合にも粘り強さを期待できる構造とする。

○津波水位は、レベル2の津波高とする。

【検討手法】

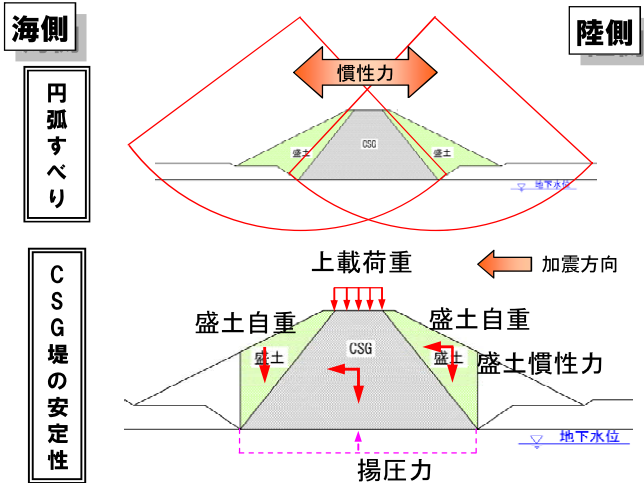
【常時・レベル1地震時】

「防潮堤全体に対する円弧すべり」と
「CSG堤の安定性」を検討

【レベル2津波時】

「CSG堤の安定性」を検討

レベル1地震時における荷重条件の模式図



レベル2津波時における荷重条件の模式図

